

天文月報 第壹卷目次

第壹號

發刊の辭(理學博士寺尾巖)	一
日本天文學會々則及役員名	二
太陽黑點に就て(一)(理學博士平山信)	三
各地の日月出入時刻計算法 (理學士平山清次)	四
天文學の曙光(一)(木田親二)	六
雜報	八
天文臺及天文學者要覽	八
昨年中に物故せる天文學者	八
水星經過	九
土星の環	九
北極地方の氣象學研究	九
エンケ彗星	九
アンゲエルス天文學會	一〇
日本天文學會發起人會	一〇
天文學談話會紀事	一〇
惑星の位置及經路	一〇
天圖の説明	一一
四月の天	一二

第貳號

太陽黑點に就て(二完)	一三
(理學博士平山信)	一三
時の話(一)(田代庄三郎)	一四
ハリ彗星(一)(小川清彦)	一六
雜報	一八
流星雲	一八

天文月報

(第壹卷總目次)

第參號

火星に山なき理由	一九
エンケ彗星	一九
木星の衛星	一九
ヤング教授の計	一九
土星の新環	一九
アンドロメダ星雲の距離	一九
五月の惑星だより	二〇
五月の天	二〇
流星と空氣(理學士早乙女清房)	二一
ハリ彗星(二完)(小川清彦)	二三
天文學の曙光(二)(木田親二)	二四
獨國ボツダム天文臺長 故フオーゲル先生の傳 (理學博士平山信)	二六
雜報	二八
火星に水蒸氣存在す	二八
火星に生物存在するか	二八
火星は生物の住所に適す	二八
バルセウス座第二新星	二九
木星の新衛星か	二九
昨年に於けるミウ星の極大光度	二九
カーネギー學會天文臺	二九
スペースに於ける光の分散	二九
天文學談話會記事	三〇
變光星觀測法(理學士一戸直藏)	三〇
六月の惑星だより	三二
六月の天	三二
第四號	三二

木星の衛星(理學士蘆野敬三郎)	三三
時の話(二完)(田代庄三郎)	三五
雜報	三七
エンケ彗星に關する疑問	三七
木星の第八衛星	三八
本年一月三日の皆既日蝕	三八
天文學談話會記事	三九
變光星(理學士一戸直藏)	三九
天琴座β星	三九
ケフェウス座α星	三九
鷲座γ星	三九
七月の惑星だより	四〇
七月の天	四〇

第五號

緯度變化に就て(理學博士木村榮)	四一
高山の天象觀測(理學士早乙女清房)	四五
水原準三郎君を弔す (理學博士田中館愛橘)	四七
故水原準三郎氏の公にせる論文目録	四七
噫水原準三郎氏	四八
雜報	四九
五月二十一日の大流星	四九
明治四十年中の緯度變化	五〇
理科大學星學科卒業者	五〇
天文學談話會記事	五〇
應問	五〇
變光星(理學士一戸直藏)	五一
ヘルケレス座α星	五一
カシオペア座α星	五一
ペガサス座β星	五一
八月の惑星だより	五二

八月の天	五二
第六號	五三
木星族の彗星(理學士國枝元治)	五三
雜報	五八
地球上に於ける星辰の密度	五八
變光星アルゴルの軌道	五八
ハリ彗星の光度	五八
太陽系の衛星と其發見	五八
變光星(理學士一戸直藏)	五九
アルゴル	五九
鯨座α星(ミラー)	五九
九月の惑星だより	六〇
九月の天	六〇

第七號

節氣に就いて (文學博士理學士坪井九馬三)	六一
昨年に於ける土星環の現象 (理學士國枝元治)	六三
天文學の曙光(三完)(理學士木田親二)	六三
雜報	六六
太陽の大紅焰	六八
輝ける夜の空	六八
エンケ彗星の再現?	六八
應問	六九
天文臺近狀(門外漢)	六九
變光星(理學士一戸直藏)	七一
牡牛座α星	七一
オリオン座α星	七一
雙子座γ星	七一
十月の惑星だより	七二
十月の天	七二

(一一)

第八號

秦時代の日晷儀(理學士和田雄治) 七三
緯度變化の觀測法(理學博士木村榮) 七四

明治四十二年曆に就て(有田邦雄) 七七

雜報

東宮殿下臨時緯度觀測所行啓 七八
新彗星の出現 七八
新彗星の軌道 七八
大流星 七九

天文學談話會記事 七九
應問 七九

十一月の惑星だより 八〇
十一月の天 八〇

第九號

恒星の距離問題(一)(理學士平山清次) 八一

日本全國にて使用する時
(田代庄三郎) 八三

曆面に於ける干支の研究 (一)
(金子徴) 八六

雜報

モリアハウス彗星 八八
日本天文學會定會記事 八八
天文學談話會記事 九一
變光星(理學士一戸直藏) 九一
馭者座彗星 九二

十二月の惑星だより 九二

十二月の天 九二

第十號

緯度變化觀測の結果(理學博士木村榮) 九三

恒星の距離問題(二完)(理學士平山清次) 九五

余山天文臺(土橋八千太) 九九

雜報

牡牛座に於ける星團の收斂運動 一〇一
アルゴルの軌道に就きて 一〇一

天文學談話會記事 一〇一
一月の惑星だより 一〇二
一月の天 一〇二

第十一號

プレヤデス(昴宿)(理學博士平山信) 一〇三

北極星と天の北極(理學士早乙女清房) 一〇五

希臘の天文學(理學士木田親二) 一〇九

隆熙三年日用便覽を讀む
(一戸直藏) 一一一

雜報

惑星スペクトル 一一二
モリアハウス彗星 一一二
大流星 一一三
黄道光の北の極限 一一三

應問

二月の惑星だより 一一四
二月の天 一一四

第十二號

彗星と流星群との關係(井上四郎) 一二五

標時球報時方法(田代庄三郎) 一二九

雜報

海王星の外に一惑星の存在せるが如し 一二二

モリアハウス彗星 一二二

明治四十四年四月二十八日の皆既日蝕 一二二

珥星スペクトルの第六分類 一二二

天文學談話會記事 一二二

三月の惑星だより 一二三

三月の天 一二三

索引

挿入寫眞圖

太陽黑點 三

土星の環 九

ハリー彗星 一七、一八

アンドロメダ大星雲 一九

流星 二二

獨國ボツダム天文臺長 二六

フオーゲル先生 二七

獨國ボツダム天文臺 二七

木星の衛星經過 三四

日食皆既 三八

ウキルソン山太陽觀測所 四四

黄道光 四六

(二)

水原準三郎氏 四七

太陽の大紅焰 六八

水澤緯度觀測所天頂儀 七六

同觀測室 七六

モリアハウス彗星 七八、八九

自働報時機 八四

余山天文臺 九九

同 赤道儀 一〇〇

プレヤデス 昴宿) 一〇三

門司標時球 一一九

東京天文臺報時室內裝置 一一九

